

瓦礫は阪神大震災の時以下!?

瓦礫総量を過去の大震災、阪神の時と比べてみると、その差はマイナス約405万トに。阪神時、12年分あると言われていた瓦礫は、たった2年で処理が完了。東北は31基の仮設焼却炉が順次稼働中なうえ、津波堆積物を除く瓦礫総量はH24年9月7日の環境省資料によると、2045万トから1595万トに下方修正。結果的には阪神の時よりもずっと少なくなりました。



広域処理瓦礫は複合汚染されている

津波による瓦礫は、福島原発由来の放射性物質だけでなく、建物の倒壊によるアスベスト(石綿)、PCB、石油化学工場や鉱山の堆積場からの有害化学物質や重金属、そして焼却炉の寿命を縮める塩でも汚染されています。



広域処理は被災地のお金を奪う

広域処理にかかる費用は、国から被災地に支払われる復興債(借金)から捻出されます。試験焼却を強行した北九州の場合、輸送費だけで1トあたり17万5000円。広域処理がほぼ不要だった阪神時の地元処理費は、1トあたり2万2千円。わざわざ遠くまで運び税金を浪費するより、地元で被災地復興のために使われるべきでは? これは復興債を、なぜか被害のない地方公共団体が奪っていくという真逆の流れです。



なんで?

どうして?

広域処理

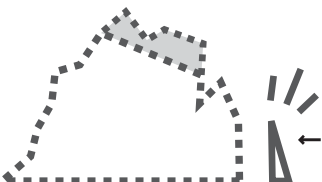
Ver.3.1

被災瓦礫、燃やすのは正しい?

阪神大震災は1年後50%の処理が終わっていたのに、今回は1年以上経ってもたったの25%(H24 8月末時点)瓦礫が片付かないのは政策の遅れが現地処理の足を引っ張ったのが原因です。被災地では瓦礫を防潮堤の埋め立て資材などとして活用したいという声があるのに国に無視されているのです。焼却だけが処理ではない、埋め立て管理すれば、活用することができる貴重な資源です。

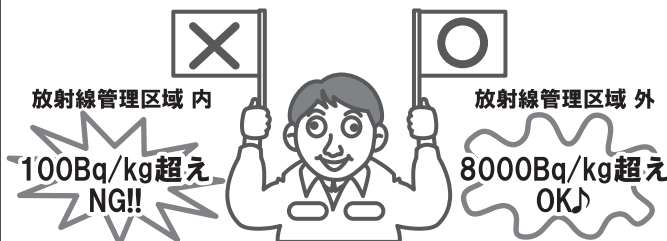
広域処理希望量は

たった
168万ト



原子力施設内は100Bq/kg、外に出ると8000Bq/kg

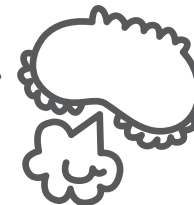
今日、今も、原子力施設内ではセシウム100Bq/kgを超えるものは低レベル放射性廃棄物として適宜工程処理された後、黄色いドラム缶に詰めて原発敷地内の施設で厳重に保管されているのに、一步外に出ると8000Bq/kgまで埋め立てOK。それっておかしくないですか?



焼却炉のフィルターは万全ではない

バグフィルターはポリエステルやガラス織布、その他、耐熱フィルターで出来ています。しかし、その繊維と繊維の間は100nm(ナノメートル)。セシウムの原子直径は0.53nm、ストロロンチウムは0.43nmです。

パンツでおならは防げない



セシウムの気化温度は671℃。フィルターに通す前はその耐温度である200℃くらいまで下げるといふものの、島田市ではある割合で放射性セシウムが焼却場から環境へ放出されたと考えられることができる、と結論つけた松葉調査の論文が京都大学工学研究科から発表されています。

空間線量計では汚染濃度は測れない

環境省は大臣と共に広域処理の説明のため、各地で空間放射線量を測るパフォーマンスをして安全性をアピールしています。しかし、空間線量計は、空間を飛び交う放射線の量を測定するもので、汚染濃度を計測するものではありません。アルファ線及びベータ線は、材木等、瓦礫を構成する物質に遮断され捕捉できません。またサンプリング調査では、人体にとって脅威となる福島由来の放射性核種のうち、セシウムだけしか検査していないのです。



原理・原則を曲げてはいけない!!

放射能や有害化学物質の取り扱い大原則は、

1. 排出抑制
2. 環境へ拡散しない



「ダイオキシン類対策特別措置法」(1999年制定)
「放射線障害防止法」(2000年制定)

今回の事故後、今まで健康のために定められてきた原理・原則がいとも簡単に変更されました。そして、広域処理は輸送のためのエネルギーコストをかけ、CO2を増大します。

環境省がこの原則を曲げるのは自滅行為です。

試験焼却の不合格ってどこ??

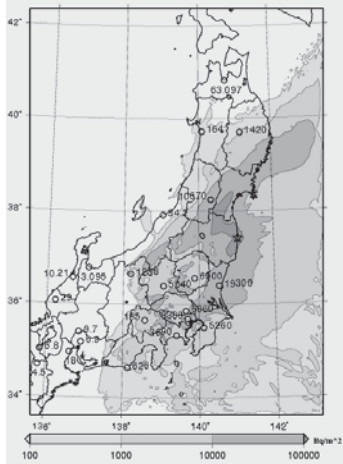
「試験焼却」とは「冷温停止状態」と同じで実態の伴わない空疎な言葉です。「試験」と言いながら燃やす試料は一般ごみに瓦礫を少し混ぜたもので、汚染濃度を薄めて焼却しています。「試験」という言葉であたかも不合格があり、後戻りできるようにみせかけていますが、実質的に本焼却の第1回目でしかありません。



瓦礫搬出地域も汚染されている

今回、広域処理として瓦礫の搬出が予定されている岩手・宮城は、環境省の「安全です」「汚染されていません」の言葉に反して、稲わらによる牛肉汚染問題

が起きています。左図の拡散シミュレーションをご覧いただいてもわかるように、広域処理対象地域である沿岸部も含めて汚染されています。稲わら同様瓦礫も汚染されています。



宮城県産
稲わらから
1万5800~
1万8100Bq

遮水シートより長生きな放射性物質

環境省が唯一測っている核種セシウム、その半減期は30年です。最終処分場で、汚染物質の漏洩を防ぐ役割の遮水シートの耐用年数は大体30年。しかし、遮水シートが寿命を迎えても、セシウムは半減しかしていません。環境に影響を及ぼさなくなるまで無害化するのには数百年かかるとも言われているのです。その長期管理は我々の子ども、孫たちが背負っていくのです。



「50cm覆土すれば大丈夫」の恐怖

放射性物質は今まで、特別管理産業廃棄物にも入らなかった究極の有害物質。最終処分場に降った雨は污水处理施設を通り河川や海洋に排出されます。しかし、処理施設には放射性物質を除去する機能はありません。31種類放出されたといわれている核種のうち、排水検査はセシウムのみ。セシウムは水溶性です。上に50cm覆土すれば大丈夫って無責任だと思いませんか?

